

令和7年度 「ちばっ子の学び変革」推進事業 研究状況報告書【国語】



芝山町立芝山小学校

学校教育目標

「未来を拓く かしこく やさしく たくましい 芝山っ子の育成」

めざす児童像

- ・自ら考え、夢中になって学ぶ子
- ・心豊かで、思いやりのある子
- ・進んで体をきたえる子

◆児童数 227名
◆学級数 全12学級
(特支3クラス)

芝山町立芝山小学校は、平成27年4月に、菱田小学校・東小学校・芝山小学校の3校が1つになり、新たにできた学校です。

目次

- ①芝山小学校の研究について
- ②研究の実践
- ③日々の取組について
- ④成果と課題



本校の課題

令和6年度 全国学力・学習状況調査から

- 複数の情報から、正しい選択ができるようにする。
- 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討したり、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討する問いに課題があったので、表現する力を高めるための授業改善が必要である。
- 文章問題において、情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解することに課題があるため、普段の学習から、課題に関連する複数の本や資料を活用した学習が必要である。

研究主題

読んで考えて書く子を育てる国語科学習指導の工夫
～児童が夢中で学習できる言語活動の充実を目指して～

「読んで」とは読んで解釈する力、「考えて」とは思考する力、「書く」とは自分の考えを書いたり、話したり、伝え合ったりして示す力とした。3つの力を総合し、日常生活に必要な国語について、その特性を理解し適切に使うことができるようにし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を身に付けさせていきたいと考えた。

言語活動の充実を図るために、学習の初めに目的や相手意識を明確にしたい。言語活動を行う際には、児童にとって個別最適な学びとなる場を設定すること等に配慮し、自分の考えに自信をもてる学習を展開し、仲間と協働して考えを伝え合う力も身に付けさせたい。

研究の目標

- 身に付けたい力を明確にした言語活動を通して、様々な文体に親しませ語彙を増やすとともに自分の考えを明確にした、思考力・表現力を育成する。
- 学習のゴール(児童のめあて)の目安として教師見本を作成し、身に付けたい力を明確にした指導計画を工夫(個別最適な学び・協働的な学び)することにより、主体的で対話的な学習を実現し、思考力や表現力の向上を図る。

研究の内容

- 主体的で対話的な学習や個別最適な学び・協働的な学びを組織するための国語科学習指導の理論研修
- 教師見本の作成から身に付けたい力を明確にした指導計画の作成 (ICT機器の効果的な活用)
- 読書量を確保するための、朝読書と並行読書の位置付けと視写学習の設定
- 各教科で生きて働く表現力を育むための理論研修
- 研究仮説についての検証授業 (講師を招聘し、年3回)及び一人一授業 (相互授業参観)

研究の仮説

- 仮説1 身に付けるべき力を明確にして、児童が夢中になって活動できる課題解決的な学習を展開すれば、児童の学習量（読書量）が充実し、読んだことをもとに主体的に考えたり表現したりする力が育成されるであろう。
- 仮説2 教師見本を作成し、児童が学習に夢中になるような指導計画を工夫（個別最適な学び・協働的な学び）すれば、意図的・計画的な言語活動が行われ、児童一人一人の思考力や表現力を高めることができるであろう。

国語科を通して育てたい力

低学年のめざす児童の姿

音読を通して、物語の世界に親しみ、感じたことや想像したことを進んで書くことができる子

中学年のめざす児童の姿

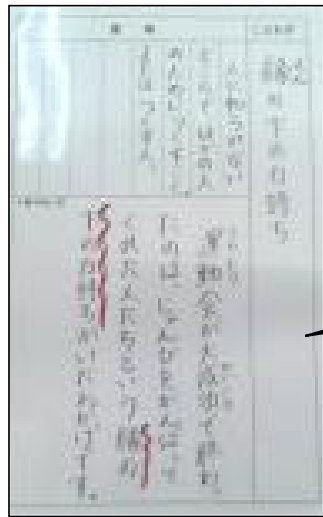
目的に応じて意欲的に音読したり、書いたりすることを通して、自分の考えをもつことができる子

高学年のめざす児童の姿

課題意識をもって多読し、文章を読んだり書いたりすることを通して、自分の考えを広げられる子

研究の実際

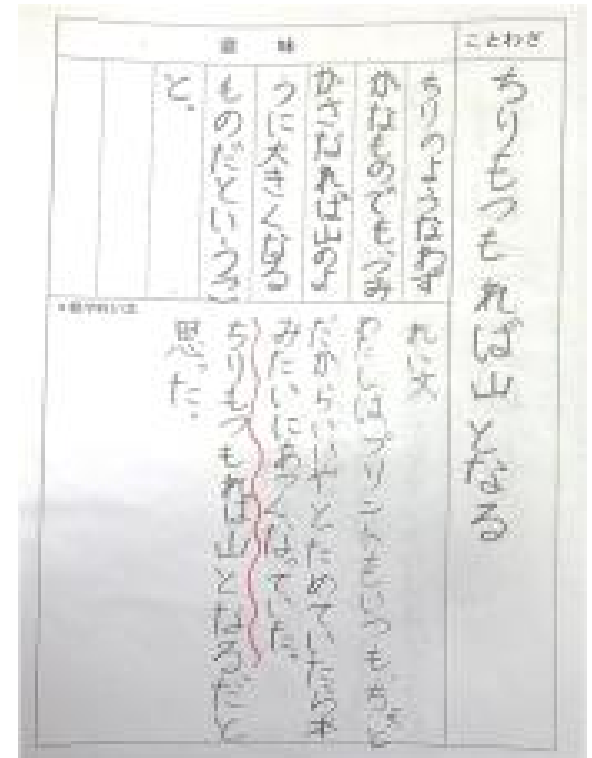
単元名 3年 ことわざ・故事成語



①教師見本を児童に提示し、ことわざクイズ大会を行うために、児童がことわざを調べ、辞典を作ろうとする意欲を高める。



②並行読書等で調べたことわざの意味と例文をワークシートにまとめる。【個別最適な学び】





③ 完成したワークシートを友達と見せ合ったり、タブレット端末で共有したりする。
【協働的な学び】



⑤ 児童が作成した
ことわざ辞典



④ 友達の作品の良いところを
を発表する。

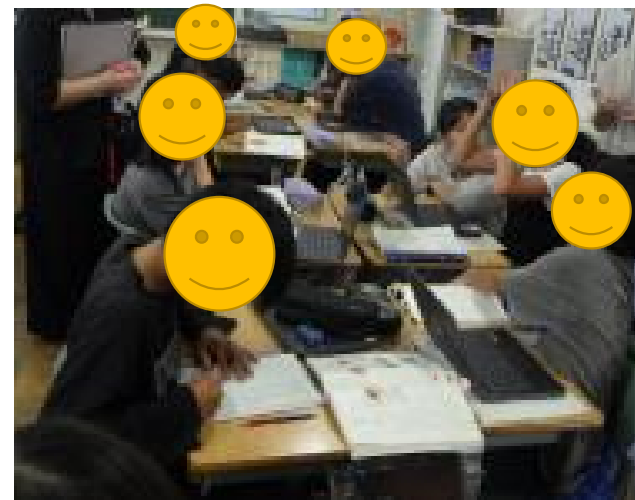


単元名 5年 伝記を読み、自分の生き方について考えよう 「やなせたかし—アンパンマンの勇気」



①教師が書いた手紙を読み聞かせ、「これから、どう生きていくのか」を将来の自分へ向けて手紙に書く見通しをもたせる。

②心に残った場面や言葉があるページに付箋を貼り、自分の思いや考えをノートやタブレット端末に整理する。【個別最適な学び】





③ノートやタブレット端末に書いた一番心に残った言葉や考えを伝え合い、自分の考えを広げ深める。

【協働的な学び】

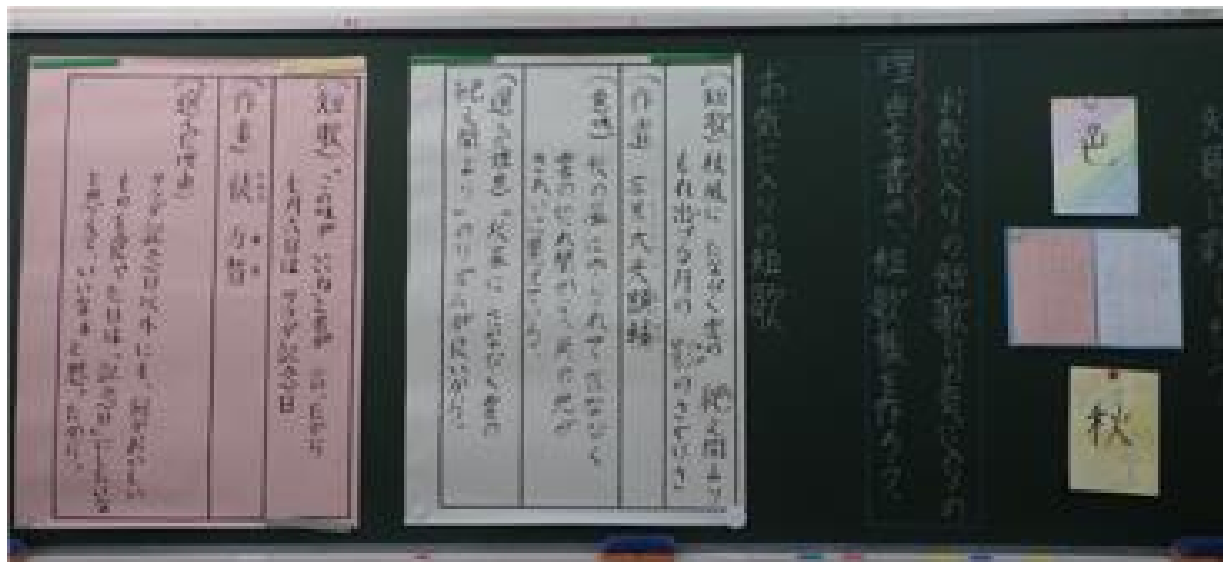
④将来の自分に向けて、どのように生きていくのがよいのか、学んだことを手紙の形式にしてまとめる。

わたしはやなせたかしの言葉や考えで心に残り手紙に書きたいところ
は、
「時には自信をなくしかけたこともあつたが、どんな仕事も決して手をぬかなかつた。」
「正義を行い、人を助けようとしたら、自分も傷つくことをかくごしなればならない。」
その言葉や考えを選んだわけは、
今、まさに自信をなくしかけてるの
で、十年後の自分には簡単に自信を
なくしてほしくないから。
優しい大人になってほしいからです。
友情は崩壊したら二度と、元に戻ら
ないから友達を大切にしたいね。
十一歳の自分より

単元名 4年 声に出して楽しもう 短歌・俳句に親しもう(一)(二)

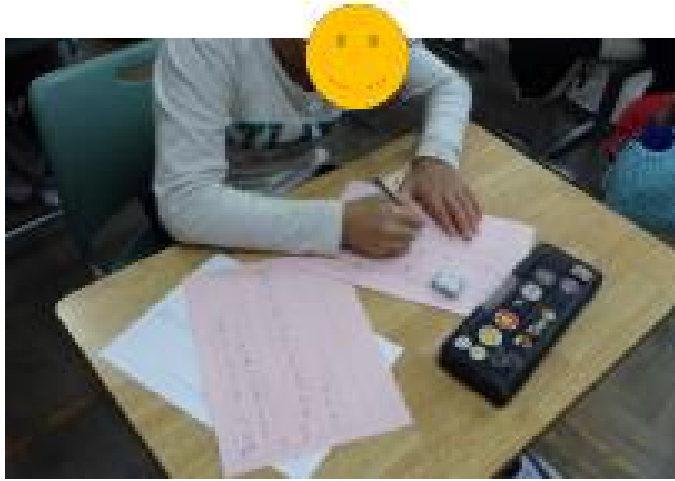


①休み時間に、百人一首で遊びながら、短歌のリズムや楽しさに親しむための意欲化を図る。



②教師見本から、学習の進め方を確認する。





③お気に入りの短歌を選び、その理由を自分の言葉で書く。
【個別最適な学び】

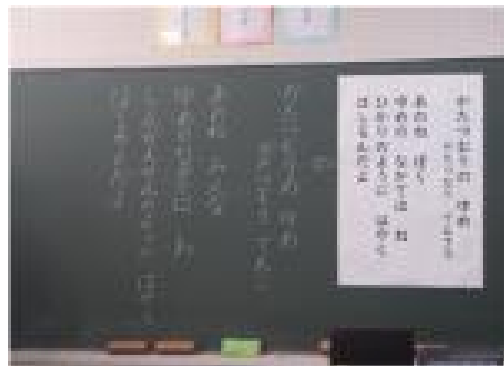
④お気に入りの短歌を友達に紹介し、感想や意見を交流する。【協働的な学び】



⑤お気に入りの短歌集

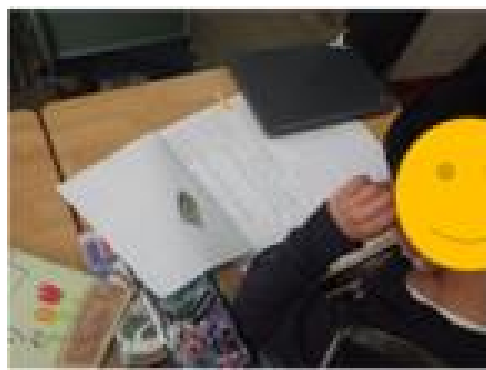
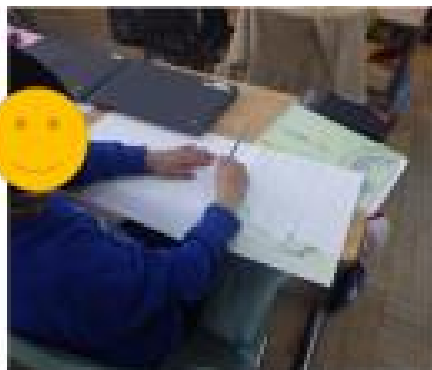


単元名 1年 なりきってよもう「かたつむりのゆめ／おいわい」



①教師見本を少しずつ提示し、児童に思考させながら詩を作り変える共通体験をさせ、活動の見通しをもたせる。

②もとの詩と作り変えた教師見本をタブレット端末に表示し、児童にわかりやすくなるよう横に並べ、どのように作り変えるとよいのかヒントを与える。



③今まで読んできた詩や詩の書き換え方を参考に、自分の経験や知識と関係付けて、詩を書き換えたり、作ったりする。【個別最適な学び】



④ 学習支援アプリを使って、作成した作品を共有し、自分の表現活動に生かす。【個別最適な学び】

⑤ 作った詩を発表する。



朝の読書活動と読み聞かせ



ある程度の分量の文章を読む力をつけることをねらいとし、「読んだことを参考にして」「読んだ文章を書き写して」と、児童が参考にできる文章が積み重なる読書活動や並行読書の充実を図りました。



視写活動

本を使っの視写

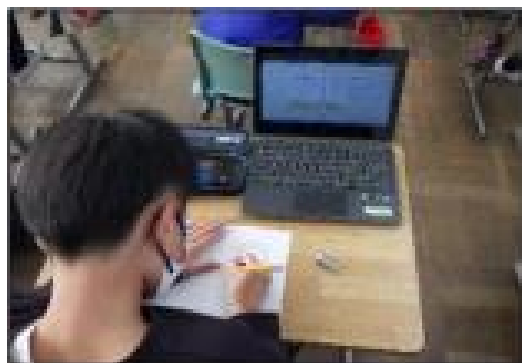


プリントを使っの視写

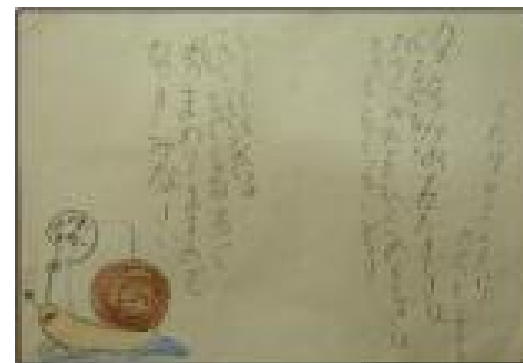


2学期から毎週金曜日に、「読んで書く」活動として、視写活動を始めました。

タブレット端末を使っの視写



児童が視写したもの



言語活動

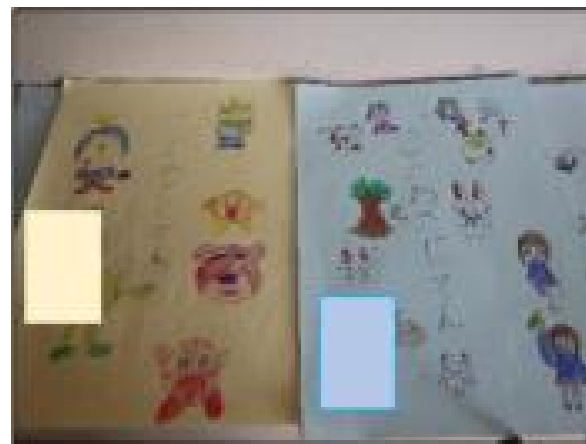
1年生が作成したつぼみブックを6年生に伝える場面



2年生が作成した
「たんぽぽのちえ」の
パンフレット



3年生が作成した
「ことわざ辞典」



研究の成果と課題

成果

- 児童が夢中で学習できる教材を選定したことと、読書量充実のための手立て（読み聞かせ・並行読書・視写）を行ったことで、読んだり学んだりしたことをもとに考え、書く力を高めることができた。
- 「ことわざ辞典」や「詩集」等を作成するという学習のゴールを明確にし、課題に関連する本を読み進めたことで、文章の特徴や文体に親しむことができた。また、それをもとにして、ことわざの例文を作ったり、詩を書き換えたりして主体的な表現活動となった。
- 教師見本を作成したことで、児童だけでなく教師側も見通しがもて、夢中になって学習に取り組むことができる指導計画となった。また、個別に支援が必要な児童に教師見本を提示したことで、自信をもって自分の考えを表現することにつながった。

課題

- 児童アンケートの結果から、「授業で意見を言ったり、文を書いたりすることが楽しいと感じる」児童は増えたが、苦手意識がある児童が学校全体で2割程度いる。より個に応じた手立てや児童の実態に合った教師見本の作成を検討していく必要がある。
- 児童に言葉がもつよさや表現技法など、様々な文体に親しませるために視写活動を行ったが、視写時間の確保や学んだことを生かす活動を十分に行えなかった。継続した「書く活動」を含めた言語活動の充実に向けた取組を検討していく必要がある。

次年度の研究の方向性について

- 教師が児童の実態をしっかりと把握し、個に応じた教師見本を事前に作成する中で、身に付けたい力を明確にした指導計画を立てていく。
- 児童アンケートの結果では、「自分の考えがうまく伝わるように話したり、詳しく書いたりしている」と肯定的な回答をする児童は8割程度いた。言語活動を充実をさせ、表現力のさらなる向上を図っていく。